

めざせ!日本ジオパーク



国引きジオパーク構想
Kunibiki Geopark Plan

やつかみずおみづぬのみこと
出雲國風土記に登場する『国引き神話』では、八東水臣津野命が
国を引いてきて繋ぎ合わせ、島根半島を作ったとされています。

これは、島根半島が織りなすダイナミックな大地の動きをもとに生まれた神話です。
いま、古代の大地の動きと、これをもとに育まれた文化や歴史、人々の営みを
『平成の出雲国風土記』として書き綴り、これらを知る醍醐味を発信していくため、
日本ジオパークへの認定をめざしています。

国引きジオパーク
構想対象エリア
〈松江市・出雲市〉



蘭の長浜

ジオパークとは

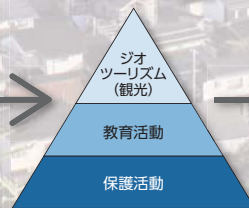
ジオパークとは、「地球・大地(ジオ:Geo)」と「公園(パーク:Park)」とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球(ジオ)を学び、丸ごと楽しむことができる場所をいいます。

大地(ジオ)の上に広がる、動植物や生態系(エコ)の中で、私たち人(ヒト)は生活し、文化や産業などを築き、歴史を育んでいます。ジオパークでは、これらの「ジオ」「エコ」「ヒト」の3つの要素のつながりを楽しく知ることができます。

ジオパークの対象



ジオパークの活動



地域振興へ

JGNのWebサイトより引用 <http://www.geopark.jp/geopark/>

国引きジオパーク構想とは

1700 ~ 1600 万年前から日本海が拡大し、その後島根半島が隆起していきました。

また、縄文時代から弥生時代にかけて斐伊川や神戸川から流れ込んできた土砂が島根半島にぶつかることで、中国山地との間に広大な平野を造り出すとともに、宍道湖・中海という日本最大の連結汽水湖を形成しました。

その変化に富む地形・地質学的基盤は、多様な生態系や鉱産物資源を利用した産業を誕生させ、「出雲文化」の形成へと導き、奈良時代に編纂された出雲國風土記の「国引き神話」のような多くの神話の誕生へとつながりました。

これらは他に例を見ないこの地域の誇れる宝であり、今、国引きジオパーク構想として地域の方々が主役となり、みなさんが元気になる活動を通じて、次世代へ、そして世界へ伝える取組が始まっています。

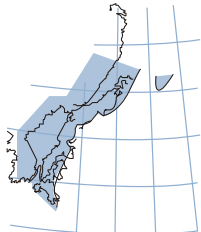


唯浦の直立層

経島

国引きの 大地の成り立ち

1 大陸の時代から 大陸分裂の時代へ



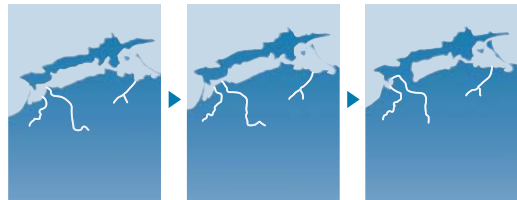
島根半島はユーラシア大陸の東端に位置していました。大陸の地質は鉄を多く含んだ花崗岩質で、のちにたたら製鉄に利用されることになります。その後、日本列島が大陸から切り離されていく中で火山や湖、河川が発達しました。

2 1400万年前 日本列島の時代



日本海が拡大していく中で島根半島は海水が浸入して深海へ沈みます。このとき、海底火山の活動が大変盛んとなります。しだいに海が浅くなってきて、中国山地が上昇していきます。

3 汽水湖・平野の時代



約7000年前 約4500年前 約1200年前

中国山地から運ばれた土砂が堆積し、出雲平野や松江平野が発達しました。このため、島根半島と陸続きになるとともに、宍道湖・中海が形成されました。そして、豊かな自然と多様な生態系に恵まれ、独特な歴史・文化が育まれてきました。その文化の一つが、松江・出雲に暮らす私たちにとってなじみの深い“国引き神話”です。

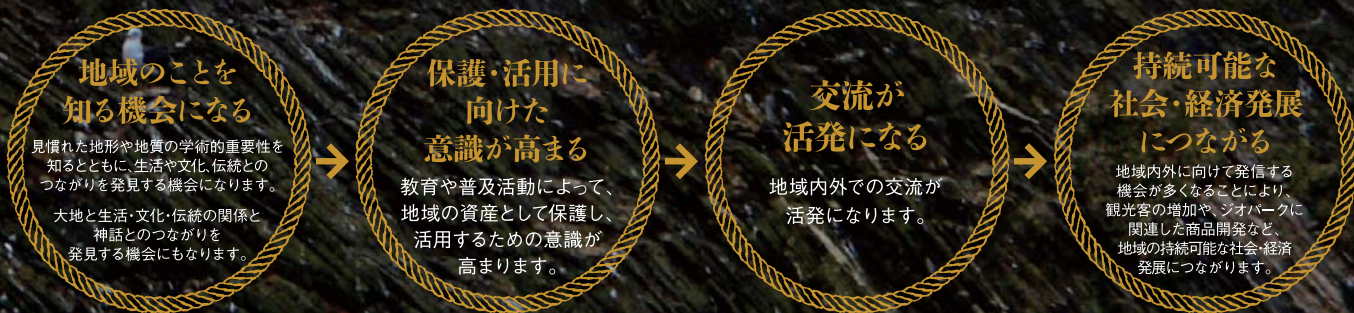
【出典】左図2点：野田、後藤（2004）日本列島の古地理復元と恐竜博物館における展示 / 右図3点：中村（2008）島根県立三瓶自然館研究報告

国引き神話とは

「国引き神話」は全国各地で編纂された風土記の中で唯一の完本と言われる、西暦733年に完成した「出雲國風土記」に登場する神話です。出雲の国を見て狭い土地だと感じた八東水臣津野命は、朝鮮半島や能登半島などの余った土地を引いてきて繋ぎ合わせ、島根半島を造ったとされています。



日本ジオパークをめざす理由



●おたすね／国引きジオパーク推進協議会（政策企画課） ☎21-6612
くわしくはホームページで <http://www.kunibiki-geopark.jp>

